



2020 オートバックス全日本カート選手権 OK 部門 第1戦・2戦

開催場所 オートパラダイス御殿場(静岡県)
開催日 7月11日・12日
参加台数 OKクラス 28台
天候 土曜日 雨/日曜日 晴れ
路面状況 土曜日 ウェット/日曜日 ドライ

～INTREPID JAPAN CORSE～

監督:佐藤奨二

ドライバー:佐藤凌音 / 大宮賢人

メカニック:伊藤進/橋本剛基/仁科真一

エンジン担当:K SPEED WIN

アドバイザー:井上寛之



2020 全日本カート選手権 開幕戦 (オートパラダイス御殿場/第1 & 2戦)

新型コロナウイルスの影響で開幕が遅れ、7月、本来であれば第3&4戦の舞台であったオートパラダイス御殿場が開幕となった今シーズン。チームは昨年に引き続き2人のドライバーを日本最高峰カテゴリーであるOKクラスにエントリーさせる。一人は昨年に引き続き、OKクラス2年目となる佐藤 凌音(さとう りょうと)選手、そして今シーズン新たに大宮 賢人(おおみや けんと)選手が加入。若い16歳コンビでの2020年シーズンとなった。佐藤はルーキーであった昨シーズン、開幕戦の鈴鹿でTOPを走り、最終戦のもてぎ大会でも速さを見せつけたが、最高峰クラスの厚い壁に阻ま

れ残念ながら表彰台を獲得することは出来なかった。今シーズンはリタイヤ率の高かった昨シーズンの反省を活かし、持っているスピードに磨きをかけ、クレバーなレースをきたいところ。大宮は今シーズンがOKクラス初挑戦。ルーキーという事になるが、実はOKレースデビューはイタリア。今シーズンのはじめ、まだ新型コロナウイルスの影響でイタリアがロックダウンする1カ月前にカートの聖地ともいえるロナートのサウスガルダサーキットで伝統のウィンターカップを戦い、凄まじいドライバーレベルの中、OKクラスデビューを果たしている。昨年のRMC鈴鹿シリーズのチャンピオンでもありレース経験も既に豊富だ。2004年生まれの両選手で開幕戦のもてぎから表彰台の中央を狙うつもりが、上記の通り開幕戦は中止、またカートの走行自体も3、4、5月と不可能な状態になり今シーズン自体も危ぶまれたが、6月に入り今シーズンの全日本選手権の日程の再決定が発表。6月中旬よりチーム活動を再開させ、タイヤテストやプライベートテス



大宮 賢人 選手



佐藤 凌音 選手



トを積極的に行い、例年の進化より数段上のレベルアップを実感し、ドライバーもチームも非常に手ごたえがあるオフシーズンとなっていました。まさかの梅雨の時期に開幕を迎えることになった今シーズン。タイヤメーカー各社の実力も拮抗し、蓋を開けてみなければ分からない、そして梅雨の時期とあって最後まで路面コンディションも分からない、運も実力のうちの開幕戦の様相。チームは水曜日からピットを設営。準備万端で木曜日からの走行を迎えた。なお、残念ながら今大会は社会情勢を鑑み、無観客での開催。そして関係者もコース入場時には体温のチェックなどが行われた。

【木曜走行日～】

木曜日から走行を開始したチーム。開幕戦は OK クラス初開催のオートパラダイス御殿場。路面のグリップが非常に高く、また逆バンクコーナーが多く時計回りの珍しいサーキット設計だ。通常のタイヤでも横 G を強く感じる路面とスペシャルタイヤのマッチングに不安はあったが、事前のタイヤテストでも佐藤、大宮ともに速さを発揮、開幕戦から表彰台を狙えるポテンシャルがある。不安材料は天候・・・。木曜日は路面はドライ、しかし小雨がぱらつき時折路面を濡らす微妙な状況。ドライコンディションでは佐藤、大宮 両選手ともにスピードを発揮してくれ事前のテスト通り好調。特に大宮のドライでのペースはさらに良い。しかし問題はハーフウェット～ウェットコンディションで、そこまでの雨量がないと他社メーカーに負けてしまう。スペシャルタイヤのスポットの気温と雨量ならでは状況を把握し木曜日は終了。また金曜日には 7 回もの走行ヒートがあるが、なぜか OK クラスの走行になると雨が降る謎の境遇に・・・。しまいには最終走行ヒートで本格的な土砂降りとなり金曜日は終了。収穫としては雨量が増えるほど戦闘力があり、BS タイヤ内でも TOP レベルのスピードを見せた最終ヒートとなったこと。結論、願わくば土曜日のタイムトライアルからは本降りの雨かドライ！しかし状態としては決して悪くない雰囲気だ。



【タイムトライアル】 佐藤 A 組 7 位(全体 13 位) / 大宮 A 組 11 位(全体 25 位)



抽選で決まるタイムトライアルのグループ分けは両選手ともに A 組、コンディションは朝からレインだが、本降りではない我々にとってはベストと言えるレインコンディションではない・・・。15 時 5 分よりタイムトライアルスタート。各車この後の雨量を鑑み、早めにピットアウト。しかし雨量はそこまで多くなく、ヨコハマ、ダンロップタイヤのドライバーが好調。佐藤は 3 周目にベストタイム。大宮も続きたいところであったが、2 周目 1 コーナー先でコースアウト。昨日のレインコンディションでは BS タイヤ勢でも上位タイムであった大宮には悔やまれる A 組 11 位タイムとなった。

【第1戦 予選】 佐藤 9位 / 大宮 19位(F スポイラー脱落ペナルティ)

土曜日には OK クラスのみ予選ヒートが設けられている。タイムトライアルと同じくレインコンディションの中、今年からエンジン暖気が禁止されたこともありスタート前のローリングは 3 周行われ、スタート。隊列後方では 3-4 ワイドになるもコース幅が広いこともありコースアウトするマシンもなく、さすがにハイレベルなドライバーが集まるクラスのスタート。佐藤はスタートで 13 位から 8 位にまでポジションアップ、しかし後方から迫るダンロップ勢にペースは及ばず 10 位でゴール。後に前方のマシンにフロントスポイラー脱落ペナルティがあり 9 位に繰り上がる。車の仕上がりが悪くなく BS 勢では 3 位の結果。一方、タイムトライアルで痛いコースアウトをしてしまい後方スタートの大宮。事前のテストのスピードであれば相当なポジションアップができるが、後方の中で苦戦。14 位前後のポジションでゴールしたが、フロントスポイラーがずれておりペナルティ 5 秒加算で 19 位となった。佐藤は 2 年目の走りをし、大宮はスピードはあるが OK クラスの壁に阻まれている。



【第1戦 決勝】 佐藤 25位(リタイア) / 大宮 10位



天気予報も晴れ方向へ変わりつつあり、翌日の日曜日はまた違ったコンディションのレースとなりそうだ。ころころ変わった天気予報、結局日曜日はドライコンディション。朝の公式練習も悪くなく、決勝では前日の予選で未使用のドライタイヤをフルに使い上位を伺いたいところ。OK クラス第 1 戦の決勝は朝の 10 時前にスタート。ここでも大きなクラッシュはないものの、佐藤 大宮ともに若干のポジションダウン…。上位勢はドライコンディションになるとダンロップは厳しそう。しかしヨコハマタイヤ勢が想定外のドライでの速さを見せる。長い決勝、しっかり走り切りたいところであったが 3 周目に佐藤は後続からの接触により 5 コーナーでコースアウト…。何とか押し掛け再起動は出来たものの、すぐ後ろに先頭集団が来てしまいリタイアを余儀なくされる。今シーズンは去年のリタイア率の高さを改善しポイントを積みたかった佐藤にとっては辛いリタイアとなった。一方の大宮はレース序盤、後方集団で揉まれてしまいスピードを発揮することが出来ず苦しんだが、レース 7 周目を過ぎると本来のスピードを戻しはじめ、9 周目には、この時点での全体ファステストをマークするなど復調、10 位フィニッシュ。全体ベストには及ばないものの、BS 勢でもほぼ TOP タイムは出ている。コンマ 2 以上ベストに劣るドライバーが表彰台を獲得していると考え、両ドライバーにとっても課題が見える開幕レースとなった。

【第2戦 予選】 佐藤7位 / 大宮19位

OK クラスは第2戦の決勝。再びタイムトライアルの結果順となるため佐藤は13位スタート。大宮は後方25位からのスタートとなる。2レース分の予選グリッドとなるタイムトライアルの重要性が響く。お昼過ぎに行われる予選は真夏のように日が差し、第1戦の決勝ともさらに違うドライコンディションだ。3周のローリングの後、スタート。佐藤は混乱するアウト側を避けたことが功を奏し、2つほどポジションアップ。しかし大宮は少しかぶり気味だったか、スタートでポジションを下げてしまい、ほぼ最後方へ。OK初年度の大宮にとっては試練が続く。路面が改善し重たい、くわれる路面になってもヨコハマ勢のスピードは高い。BS 正勢のなかでの予選トップタイムは佐藤で徐々に前方に迫る。大宮は事前のタイヤテストから高いスピードで、チーム内の同じ16歳同士刺激し合ってきたが、スタートからのかぶりが原因か、タイムも伸びない……。佐藤は7位までポジションを上げてゴール。また昨年度まで時折みられた荒れたタイヤも改善。2年目で大人の走りをはじめてきている。大宮は苦しみながら19位でゴール。普段クレバーな走りをする大宮には珍しくタイヤが荒れており、普段の感覚をまだ取り戻せていない印象だ。



【第2戦 決勝】 佐藤7位 / 大宮13位

天気予報に一喜一憂した開幕戦の日曜日は決勝まで天気が持ち、第2戦の予選の真夏ぶりからは気温は下がるものの、終始ドライコンディションとなった。ここまで雨も晴れもヨコハマ勢が速く、驚く展開となった開幕戦の最後の決勝は14時半過ぎにスタート。7番手スタートの佐藤はまずまずのスタートであったが、3コーナーから最終コーナーの間にポジションを4つほど下げてしまう痛い展開。大宮はまずまずのスタートでポジションをキープか1つ2つ上げたように見える。佐藤は順位を12-13番手にまで落としたが、その後はトップ集団と変わらぬスピードで順調に前方のマシンをパス。昨年のような、がむしゃらな走りでもタイヤを痛めることもなく、スタートでのポジションダウンがなければ本当に面白い展開だったと思える走りで7位ゴール。昨年にくらべると大人の走りをした佐藤。タイヤを痛めることもなく、決勝では何とか元のポジションまで戻したが、ほんの一瞬のすきに多くを失う最高峰クラスのレベルの高さと、まだ足りないものを明確に理解できる結果としては残念だが有意義な開幕戦になった。大宮は事前のタイヤテストからレースウィークの金曜日まで2年目の佐藤を脅かすタイムも出しながら順調だったが、タイムトライアルのコースアウトがボタンの掛け違いのようになってしまい、なかなかペースを戻せない……。決勝も本来のスピードからするとコマ3以上は足りていない。それでも何とか候補集団から中団、そしてチームメイト佐藤の後方まで追い上げ13位でのゴール。シーズンオフの走り込みやイタリアでのレース活動まで積極的にこなし、ようやく迎えた開幕戦だけに悔しい思いは強いだろうが、日本のOK クラス独特のスペシャルタイヤ、路面が瞬時に変わる状況変化、レース展開、そして強い精神力をもって次戦の茂原大会ではリベンジの結果をぜひとも残してほしい。今大会はヨコハマ勢のスピードに驚きつつも、タイムが奮わなくても上位にいるベテラン強豪ドライバーもおり、若い両ドライバーにとってもスピードだけではない必要なものも大いに見えた戦いとなったと思います。もちろんチーム力の更なる底上げも必要ですが、若い佐藤、大宮両ドライバーにも、次のレースまでの2か月間しっかり自分と自分のドライビングを見つめて必ず茂原で表彰台に上ってもらいたいと思います。今大会も様々な方よりお力添え、そして応援を賜り本当にありがとうございました。



ドライバー 佐藤 凌音 コメント



7月に開催となった開幕戦でしたが、レースでは土曜日、日曜日で天候が大きく違いましたが、自分なりに対応できたと思います。しかしレースメイク面、ドライビング面での多くの課題があるので次戦の茂原までに克服し、優勝という目標に向かって準備していきます。今回も応援してくれた皆様ありがとうございました！次戦もよろしくお願いいたします！

ドライバー 大宮 賢人 コメント



今回のレースウィークでは速さはありましたが、自分のミスで表彰台に乗ることが出来ませんでした。次回の茂原までにもっと強くなって、次こそは勝ちます！応援よろしくお願いいたします！

INTREPID JAPAN CORSE 佐藤奨二 監督



今年は若手二人をレースドライバーに迎え、レースまでにしっかり練習をさせて挑んだ開幕戦。スピードは両選手ともありましたが、ミスもあり望んだ結果を得ることが出来ませんでした。しかし、今後に向けて両選手ともレースウィーク中かなり成長出来たと思います。結果はあまり出なかったですが次戦に繋がるきっかけになる今回の経験を次戦までにチームメンバー全員で課題を克服して上位で戦える様強化していきたいです。最後にレース参戦にあたり、スポンサー様をはじめサポートして下さった方々に感謝致します。次戦は良い報告が出来るよう一層努力致します。

